

令和5年度 福岡市総合教育会議

議事録

○ 日 時

令和5年11月14日(火) 11時25分～12時00分

○ 開催場所

福岡市立内浜中学校 2階被服室

○ 出席者(7名)

市長	高島 宗一郎
教育委員会	石橋 正信(教育長)
	町 孝
	原 志津子
	武部 愛子
	西村 早苗
	徳成 晃隆

○ 議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 議事

(1) 協議事項

① 不登校児童生徒への支援の充実について

② 教員に関する課題への取組状況について

(2) その他

5 閉会

※ 開会前に「英語の授業(オールイングリッシュ)」を視察(約15分)

- 「不登校児童生徒への支援の充実」、「教員に関する課題への取組状況」の進捗状況と今後の方向性について、教育委員会事務局から説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

＜不登校児童生徒への支援の充実について＞

- ・不登校の要因が多様化しており、これまでの支援策だけではなく、子どもたちが安心して学べる場の選択肢を増やしていくことが大事。
- ・将来に繋がるような知識や考え方を身に付ける場所や自分は自分らしくしていいんだと思える、安心できる居場所を提供することが大事。
- ・学びの多様化学校については、子どもたち一人ひとりに向き合って支えていけるような学校にしていくことが大事で、体験活動を増やしたり、習熟度や希望に応じてコースを分けたり、少人数できめ細かな指導を行うなど様々な取組みを検討していきたい。
- ・子どもたちが、それぞれの願いや思いを実現させ、自らの姿に自信や希望を持って過ごすためには、個々の実情を理解し、状況に応じた適切な支援を継続しながら、丁寧な教育を実施していくことが重要。
- ・不登校の要因それぞれに対応して、子どもたちへの影響ができるだけないように、公共の部分でうまくフォローすることが必要。

＜教員に関する課題への取組状況について＞

- ・若い教員の育成にはOJTが重要で、校長を中心とした学校のマネジメント力を一層高めていく必要がある。
- ・教育委員会としては、教育センターの研修や指導のさらなる改善や管理職がマネジメントに注力できるようなサポートを行っていきたい。
- ・教員の働き方改革については、支援スタッフの拡充や自動音声対応電話、高機能複合機、デジタル採点システムの整備、11時間のインターバル制度の導入などにより、在校時間は着実に短くなっている。
- ・教育界は他の産業に比べ、ICTの活用がやや遅れているのではないかという気がしており、授業準備のやり方など改善の余地があるのではないかと思っている。こういった部分も校長次第で変えられるところがあるため、校長のマネジメント力を向上させることで教員のWell-being向上につなげていきたい。
- ・GIGAスクール構想で1人1台端末のハードがそろった今、次はソフト面の整備が必要。ソフト面の整備が教員の負担軽減につながる部分が相当あると考えているが、こういった義務教育の基本的な学習環境は、自治体によって差が生じるべきでなく、国がしっかりとソフト面も整備すべき。
- ・ICTを積極的に活用して教員の負担軽減を図り、効率化できるところは効率化する、子どもたちに向き合うところは、より情熱をかけるというように、うまく最適化することが大事。

発言者	発言内容
高橋企画調整部長	<p>定刻となりましたので、これより、令和5年度福岡市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の司会を務めます、総務企画局企画調整部長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、高島市長にご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>おはようございます。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、日頃から福岡市の教育行政に多大なるご尽力をいただいていることに、まず感謝を申し上げたいと存じます。</p> <p>今日の会議に先立って、オールイングリッシュの授業を見学させていただきました。こちらの学校では、2年ほど前からオールイングリッシュの授業を始めたとのことですが、子どもたち同士が向かい合って、好きな音楽の話などについて、非常に実用的な、具体的なセンテンスを言い合っていました。相手を変えてもう1回同じことをやってみると、明らかに最初の時よりもスムーズに話ができていて、子どもたちが、実際に口に出して話してみるという中で、英語力が上がってきているなどということ、授業の中で実感することができました。</p> <p>私が中学校3年生のときには、英語の発音をするのが少し恥ずかしかったんですが、子どもたちに聞くと、ちょっと恥ずかしいけれども、すぐに慣れるということだったので、すごく心強いなというふうに思いました。やはり諸外国に行った時には、話すことと聞くことが重要です。子どもの時代からすごく英語ができているところを見ると、負けるわけにはいかないなと思いましたが、福岡市の子どもたちが、このような授業を受けながら英語力をつけているということは、非常にうれしく、頼もしく思いました。</p> <p>さて、去年のこの会議で、不登校児童生徒への対応について、私の方から提案をさせていただきました。8月に発表した「学びの多様化学校」、いわゆる「不登校特例校」の設置に向けた取組みについても、その一環だと思いますが、今日の会議では、その不登校児童生徒への支援の充実、それから教員のこと。今、非常に教員の採用倍率が下がっている。教員不足は全国的な課題でもあるんですが、福岡市でも喫緊の課題であるというふうに認識をしております。こうした教員に関する課題への取り組み、これらをテーマにいたしまして、現在の状況を聞かせていただきたいなというふうに思っていて、意見交換しながら、その方向性について共有をしたいと思っております。</p> <p>大変短い時間ではありますが、教育委員会との連携をより深める有意義な場にしていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
高橋企画調整部長	<p>続きまして、石橋教育長からご挨拶をお願いいたします。</p>

<p>石橋教育長</p>	<p>教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>先ほど市長からおっしゃっていただいたとおり、今日は、不登校児童生徒への支援の充実、教員に関する課題、これらをテーマとしていただき、ありがとうございます。</p> <p>先ほど市長がおっしゃいましたが、昨年度のこの会議の場面で、不登校児童生徒について、原因の分析とアプローチにしっかり取り組んで欲しいということをおっしゃいました。それを踏まえまして、不登校特例校の新設も議決いただきましたし、今日ご説明させていただく内容の中にありますが、実施しましたアンケートの中身についてもご理解いただければと思っております。</p> <p>またもう1つ、働き方改革、教員をめぐる課題につきましても、昨年度、市長が率先してインターバルの制度を導入していただきまして、その結果として、時間外在校時間いわゆる残業時間が減っております。</p> <p>そのこともあって、意識改革もかなり進んできたところでございますが、さらにまだ解決しなくてはいけない課題が沢山残っておりますので、本日、市長からいただいたご意見を踏まえながら、今後の教育行政を進めて参りたいと考えております。</p> <p>どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>高橋企画調整部長</p>	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>本日は、不登校児童生徒への支援の充実について、それから、教員に関する課題への取組状況について、この2つの事項につきまして、意見交換をお願いしたいと考えております。</p> <p>協議事項ごとに、教育委員会事務局から資料の説明をいただいた後、意見交換を行う形で進めて参ります。</p> <p>会議終了は12時を予定しておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>それではまず、不登校児童生徒への支援の充実につきまして、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>齊藤指導部長</p>	<p>指導部長の齊藤でございます。</p> <p>小中学校における不登校児童生徒への支援の充実について、資料に沿ってご説明させていただきます。資料の1枚目をお願いいたします。</p> <p>左上にありますように、国の動向としましては、不登校児童生徒は10年連続で増加している状態でございます。</p> <p>こうした状況を受けて、文部科学省では、令和5年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」いわゆる「COCOLOプラン」を取りまとめております。</p> <p>また、骨太の方針においても、「不登校特例校や学校内外の教育支援センターの全国的な設置促進機能強化」等を明記しており、不登校対策の一層の充実を求められているところでございます。</p>

次に、福岡市の状況でございますが、グラフに示しておりますとおり、不登校児童生徒は国と同様に増加傾向にあり、令和4年度は小中学校合わせて4,400人と、平成30年から2倍以上に増加しております。

次に、福岡市における不登校対策の現状についてご説明いたします。資料左下をご覧ください。福岡市では、資料に示しておりますとおり、子どもの状態に応じた支援策を実施しております。

不登校の未然防止・早期対応のためのQ-Uアンケートや教員による全員面談の実施、それから、学校内ではありますが、学級以外の居場所づくりとして、保健室などの別室対応や、全中学校に校内適応指導教室を設置しています。また、学校以外の居場所づくりとして、校外適応指導教室を市内4ヶ所に開設しています。さらに、引きこもりがちな児童生徒の支援として、メンタルフレンド、主に大学生になりますが、その派遣やオンラインルームの開設を行っています。

子どもの状態にかかわらず共通した支援としては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談コーディネーターによる支援やオンライン相談など、ICTを活用した支援、また、動画型デジタル教材による学習支援など、児童生徒のニーズに応じたきめ細かな支援を行っているところでございます。

また、昨年の総合教育会議の場で、不登校の子どもたちの現状をしっかりと分析し対応を検討するよう、市長からもお話があったことも踏まえ、アンケート調査を実施しております。その結果については、資料右側をご覧ください。

アンケートは、令和5年6月26日から実施し、対象を、「令和4年度に不登校状態にあった小学校5・6年生及び中学生」と、「令和4年度に不登校状態にあった小中学生の保護者」としております。

アンケートの結果の1つ目でございますが、学校や在籍の学級に通うために求める支援として、「勉強を教えてもらうこと」や「学校内外に教室以外の居場所や勉強できる場所があること」の回答が多くなっております。このことから、教室以外の居場所や勉強できる場所の拡大について取り組む必要があると考えております。

次に2つ目でございますが、不登校特例校に通ってみたいかという質問に対して、約6割が肯定的に回答しております。このことについては、9月議会で予算措置をしていただきましたが、「学びの多様化学校」、いわゆる「不登校特例校」の令和7年度の開校に向けて準備を進めていきたいと考えております。

最後に3つ目でございますが、校外適応指導教室に通っていない理由として、「あることを知らなかった」という回答が多くなっております。今後、児童生徒や保護者への情報提供の充実に取り組む必要があると考えております。

	説明は以上でございます。
高橋企画調整部長	それでは、ここから 10 分程度を目途に意見交換に入ります。 進行は高島市長にお願いしたいと思います。
高島市長	わかりました。ご説明ありがとうございました。 資料左上の不登校児童生徒数を見ると、平成 30 年から令和 4 年で 1,814 人から 4,400 人と、倍以上増えているということがやはりすごく気になっています。傾向としてはあったのかもしれませんが、例えばコロナということも、非常に大きい社会的な変化ではあったので、もしかすると異常値なのかもしれないですけども。 いずれにしても、不登校になってしまう要因が多様化しているというふうに思いますが、説明にあったように、これまでの支援策だけではなく、子どもたちが安心して学べる場の選択肢を増やしていくということも大事だと思っています。 今は、校内と校外の適応指導教室がありますが、今度は、6 割の方が興味があるという特例校を作ろうということで、どう対応していくかということについて、まずご意見を伺えますでしょうか。
武部委員	今おっしゃったように、要因が多様化しているということになると当然、対応も多様化しなくてはいけないということで、子どもたちが大人になるまでのプロセスにおいて、かなり柔軟に対応していく考え方が必要だと思っています。先ほどから話題に出ているように、将来に繋がるような知識や考え方をきちんと身につけてもらえるような場所の提供が必要だと考えています。 居場所という役割も重要で、子どもたちが、自分は自分らしくしていいんだって思える、そういう安心できる居場所を確実に提供してあげるというのは、とても大事だと思います。 実は、今年度から始まったオンラインルームにずっと関わってまして、カメラはオフでいいというふうにすると、少し入ってきてくれるとか、チャットがすごく活発になるんです。カメラをオンにしてくれる子は、最後に楽しかったよって手を振ってくれるとか、そういう表現をしていいんだって思える、安心できる場所を提供する。気持ちをなくさないようにする対応がとても大事で、そういう意味では、色々な形の支援を考えていくことはすごく大事だと思っています。
高島市長	ありがとうございます。 GIGA スクールの方で 1 人 1 台端末も揃いましたし、通信環境も色々な家庭の状況に対応しているということで、福岡市では非常に早く整備できていると思いますが、不登校という場合にも、そうした形で活用できるというのは素晴らしいことだと思います。 他の方のご意見ございましたら。
原委員	不登校特例校ですが、「児童生徒の実態に配慮して、特別に編成された

	<p>教育課程に基づいて教育を行う学校」ということで、9月に予算をいただきありがとうございます。</p> <p>この制度を使って、アンケートにもありましたように、子どもたちの、学びたいとか通いたいというような思いを実現するような教育内容を、今検討しているところではございますが、大事なのは、子どもたち一人ひとりに向き合って、支えていけるような学校にしていくことだと思っています。他都市の事例なども研究しながら、体験活動を入れたり、習熟度や希望に応じてコースを分け、少人数できめ細かな指導ができるような、そういう学校を目指すようにということで検討しているところです。</p>
高島市長	<p>次の協議事項である「教員の働き方改革」ということもある一方で、求められるニーズは多くなっています。でもやはり色々な要因に応じて、校内がいいのか校外がいいのか、オンラインが良いのか、特例校がいいのか、1番ふさわしい選択肢があるっていうのは、子どもたちにとって非常に大事ですから、できるだけ実現していただきたいです。</p> <p>他にありませんか。</p>
西村委員	<p>保護者の方や子どもたちの話を聞かせてもらっていますので、申し上げたいと思います。</p> <p>子どもたちや保護者はそれぞれ悩みや不安を持ちながらも、今の状況から一歩でも踏み出したいと考えていると思います。学校でやってみたいことや学びたいことなど様々なことを、学びの多様化学校に求めているのではないかと思います。</p> <p>保護者の方々からも、学校があっている時間帯に、やむを得ず子どもをひとり家に残して、仕事に出かけなければいけないという、つらさや不安をよく伺っています。</p> <p>通学する子どもたちが、それぞれの願いや思いを実現させ、自らの姿に自信を持ち、希望を持って過ごすことができるような、個々の実情を理解し、また状況に応じた適切な支援を継続しながら、丁寧な教育を実施していくことが重要だと考えます。</p> <p>そして、子どもが元気に「行ってきます」と家を出て「行ってらっしゃい」と笑顔で送り出す、その喜びが続いていくように、子どもたちの未来のために、我々も頑張っていきたいと考えています。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他の委員の方からありますか。よろしいですか。</p> <p>不登校になった子どもたち、要因が色々あるという話しをしましたが、子どもたち自身のこととあれば、家庭の環境ということもあると思います。それぞれに対応して、子どもたちへの影響ができるだけないように、公共の部分でうまくフォローできるように、これからもぜひ教育委員会の皆さんにはお力添えをお願いしたいというふうに思います。</p> <p>ではお返しします。</p>

高橋企画調整部長	<p>それでは次の事項に移ります。</p> <p>教員に関する課題への取組状況について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
峯川職員部長	<p>職員部長の峯川でございます。</p> <p>それでは教員に関する課題への取組み状況について、資料に沿ってご説明させていただきます。資料の2枚目をお願いいたします。</p> <p>まず上段の「国の状況・対応」です。</p> <p>令和4年1月に、教員不足に関する実態調査の結果が公表され、全国的に深刻な教員不足が明らかとなりました。さらに、令和3年度の教員採用試験において、全国の小学校教諭の採用倍率が過去最低を記録するなど、教員のなり手不足の問題も顕在化したところでございます。</p> <p>右側をご覧ください。教師不足及び採用倍率低下の要因としては、特別支援学級の増加などにより必要な教員数が増加したこと、教員の大量退職に伴い採用数が増加したこと、その結果として、臨時講師の正式採用が進み、講師登録者が減少するとともに採用試験受験者が減少したこと、また、長時間勤務など、教員の厳しい勤務の状況が、志願者の減少に繋がっているなどとされております。</p> <p>この状況を踏まえ、現在、国においては、質の高い人材を確保するため、抜本的に教職の魅力を上向きさせることが喫緊の課題であるとして、さらなる働き方改革、教師の処遇改善、学校の指導運営体制の充実という三本柱で検討が進められております。</p> <p>次に、資料の中段「市の取組み・課題」でございます。福岡市においては児童生徒数が増加しており、これに伴って必要な教員数も増加するという、全国でもあまり例のない状況にございます。このため、さらに多くの教員を採用する必要があり、全国的な教員不足の中で採用数を確保するため、表の下に記載しております3つの課題に対応して取組みを行ってまいりました。</p> <p>まず既卒受験者が減少する中、優秀な人材を確保するため、県内の大学と連携して人材の育成を図る大学連携特別選考を導入いたしました。また、採用試験における本市講師に対するインセンティブを拡大し、講師登録者の確保に努めることや、昨年、市長のリーダーシップのもとに導入した11時間の勤務間インターバル、男性育休取得促進など、働きやすい環境整備に取り組み、そのPRを行ってまいりました。</p> <p>これらの取組みの結果、表に記載のとおり、令和3年度以降は5年前の約2倍となる500人規模の採用数を確保し、教員不足の一定の改善を図ることができました。しかしながら、採用倍率については全国平均を大幅に下回る状況が続いており、引き続き、質の高い人材の確保に向けた取組みが必要と考えております。</p> <p>資料右側をご覧ください。教員の年齢構成のグラフを掲げております。</p>

	<p>近年の積極的な採用の結果、教職員に占める若年者の割合が非常に高くなっており、また、過去の採用抑制の影響でこれまで管理職を担ってきた年齢層の割合が低くなっております。若年層の増加により、産休・育休取得者も非常に増えておりまして、また、経験の浅さゆえに保護者対応等で行き違いが生じることも多く、従来以上に管理職の適切なマネジメントが求められる状況です。一方で、管理職にも経験の浅い者が増えていることから、さらなる働き方改革で、管理職や教員の業務をスリム化していくとともに、円滑な学校運営に向けた支援が必要と考えております。</p> <p>資料の下の段をご覧ください。このような現状及び課題を踏まえ、今後におきましては、質の高い多様な人材の確保の観点から、大学との連携のさらなる強化や、多様な専門性・背景を有する人材の確保に取り組むとともに、未経験者が学校現場にスムーズに入っていけるような仕組みづくりに取り組んでまいります。</p> <p>働き方改革については、これまでの教育委員会主導の取組みに加え、それぞれの学校において、地域や学校の状況に応じた業務改善を行っていくよう、学校の意識改革による自律的な取組みを進め、また、学校の運営体制を支援するため、引き続き多様な支援スタッフの学校教育活動への参画を進めてまいります。</p> <p>このような方向性で、教員の Well-being を確保しながら、学校組織全体で教員の質を高めていけるよう、教育委員会としてしっかり取り組んでまいります。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
高島市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>教員不足の中で大量に採用し、倍率が下がったというお話がありました。大量採用ということが必要なのはもちろんわかりますが、こうやって経験の浅い若い方がたくさん入ってくるとなった時に、どう教育していくかなど、そういったフォローはどうされているのでしょうか。</p>
徳成委員	<p>「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」と教育公務員特例法第 21 条にありますけれども、私たちの若い頃と違って、たくさんの若い先生たちが今学校現場に来ていて、若者の良さや優秀さもたくさんあるわけですが、いかにこの若い先生たちについて、学校生活、学校文化に親しみながら、子どもたちをどう指導していくかというところで、せめて最低 1 年間は周りの先生たちがフォローしていますが、教育委員会のサポートがないと、やはりこれは無理だろうと思います。</p> <p>病気休職者で退職する若手の先生がいらっしゃるわけです。色々な校長先生の話をお聞きすると、新規採用教員が 10 人いるという学校がありました。どうフォローしているのかを聞くと、1 つは教育センターで行われている研修を活用している。この研修には、かなりきめ細かな多様性のある</p>

	<p>メニューがあります。ですが、何よりもやはり OJT なんです。子どもとの向き合い方についても、保護者対応にしても、授業の進め方についても、そこをどういうふうに日々サポートしていくかにかかっています。私自身若い頃、あんな先生になりたい、この教科指導ではあの先生みたいになりたいという憧れを追い求めていたところがあり、そういう憧れられる先生たちを、学校現場の中でどう育てていくかということは、管理職のマネジメントに求められているというふうに思います。</p> <p>繰り返しになりますが、Off-JT の教育センターの研修や指導については、教育委員会がもっと改善していく必要があるだろうし、校長を中心とした学校マネジメントということ、一層高めていかないと、先生たちに力が付いていかないのではないかと思います。教育委員会としては、管理職がマネジメントに注力できるよう、これからもサポートをしたいと思います。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>サポートはすごく大事になっていると思うので、必要な対策をよろしくお願いいたします。</p> <p>採用の倍率が下がってきていて、そもそもなりたいと思う方がちゃんと出てきてくれるといいのですが、そのためにも、やはり働き方改革というか、負担が大き過ぎる、求められるニーズとか責任がどんどん重くなるでは、それは思いがあってもなかなかというふうになってしまうと思います。</p> <p>こういった点について取組みをしていかないと、そもそもなりたいという優秀な人が来てくれる現場にならないと思うので、インターバルの話も出ましたが、こういった取組みがあるのか教えていただけてよろしいでしょうか。</p>
町委員	<p>まず、現場の状況ですが、支援スタッフを数多く措置していただきました。それから、自動音声対応電話、高機能複合機やデジタル採点システムといったものも導入しています。</p>
高島市長	<p>予算の時に、教育委員会から聞いていましたが、役立っていますでしょうか。</p>
町委員	<p>すごく評判が良いです。ものすごく助かっていると聞いています。</p> <p>それから 11 時間のインターバル制度、これも着実に在校時間が短くなっているということで、私も何度か直接話を聞いてみましたが、実際に導入前と比べて短くなっているということでした。</p> <p>ただ、依然として長時間の勤務実態があります。文科省が、全国の学校における働き方改革をホームページに掲載してしまして、調べてみると、こういった ICT を活用すれば、このくらいの時間を削減できるという事例がたくさん出ています。何十時間どころじゃなく、ひよっとしたら十日分以上削減できます。これは一律にばっさり切った場合ですので、先生方の</p>

	<p>熱情と言いますか、思いもある中で、必ず削減できるとは思いませんが、もっと活用できる部分があるのかなと考えています。</p> <p>全国学力学習状況調査が年1回行われていますが、私は、児童生徒の点数を上げるためだけの対策をしてほしいとは思っておらず、先生方が回答されている部分を非常に注視しています。それを見ると、教育界は他の産業に比べ、ICTの活用がやや遅れているのではないかと思います。授業の準備のやり方など、そういった部分に改善の余地があるのではないかと思います。</p> <p>また、先ほど徳成委員がおっしゃったように、やはり校長先生のマネジメント力が今から大事になってくると思います。実際、色々な部分で、校長先生次第で変えられるところがあると思っています。先生方のWell-beingの向上に繋がってくると思いますので、私たち教育委員会、あるいは教育委員としても一緒になって頑張っていきたいと思っています。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。今、ICTの活用のお話と、それから教員の熱情のお話がありましたが、上手く切り離せると思っていて、熱情を加える部分は加える、効率化できるところは効率化するというところで、いかにICTを使いこなすかがすごく大事だと思います。</p> <p>日曜日の福岡マラソンの後、政府の行政改革推進会議がありました。私は委員になっていまして、そこでまさに教育の話をしました。文科省の担当だったので、そこでは、GIGAスクール構想で1人1台の端末のハードはそろったと、次はやっぱりソフトだと。校務の諸々や民間の学習動画の活用などについて、うちは積極的に取り入れようとしているけど隣の市では使っていないとか、義務教育の中でも自治体によってそこに予算をかけるかかけないかはバラバラで、やはり今、意欲がある自治体だけが進めるのではなくて、国がしっかりとソフト面を整備することで、町委員がおっしゃったように、教員の負担軽減になる部分が相当あると思うので、そうしたところはぜひ積極的に取り入れて、熱情をより注ぐべきところに注いでいくというように上手く最適化をすることはすごく大事なことで改めて思った次第です。</p> <p>他にございませんか。この件については、よろしいですか。</p> <p>少し戻りますが、不登校特例校に対して期待している人が非常に多いと思います。その不登校特例校については9月議会で補正を行いましたので、教育委員会が開校に向けて今準備を進めていますが、やはり、通いたい、通い続けたいと思っていただける学校にするために、現在どういう取り組みをしているのかと、その部分を聞かせていただけますか。</p>
石橋教育長	<p>まさに市長に予算を確保していただけて進めています。現在は、教育課程について、関係団体をはじめ色々なところからご意見を伺いながら、どういうカリキュラムが福岡の子どもたちにマッチするのかというところを勉強している最中でございます。いただいた予算を使って視察に行き、経</p>

	<p>験もさせていただいています。</p> <p>しかしながら、特例校としての指定を受けるにあたって、国と協議をしていく必要がありますので、今明確に、こういうふうにしますということは申し上げられませんが、先ほどありましたように、体験を増やすとか、あるいは習熟度別のコースを作りますとか、様々な取組みを、できる範囲でやっていこうという方向性でございます。</p>
高島市長	<p>不登校特例校には、おそらく学力とかではなく色々な要因で、ここに通いたいという人が通うので、個別最適な学習が必要になってくると思います。そうした教育課程の編成について、是非、しっかり綿密にお願いしたいと期待をする次第です。</p>
石橋教育長	<p>今日、たくさんのご指導をいただきました。例えば不登校に関しては、色々な子どもたちがいるので、それに応じた選択肢を増やすべきだということをご意見をいただきましたし、教員の問題に関しては、働き方改革は幅広に進めていくべきということをご意見をいただきました。</p> <p>来年度予算に向け、色々と内部で検討しながら、教育行政が進むように取り組んでまいりたいと思っておりますので、またご指導よろしくお願いたします。</p>
高島市長	<p>本当に、不登校の話、そして教員の働き方という、ある部分ではよりきめ細かにとということと、一方で、教員の負担をいかに軽減するかということ。おそらく、これを解いていく鍵の1つはICTの活用で、子どもたちに向き合うところは、より情熱をかけ、そうでないところは、より効率的になるように、予算時期になりますので、そうしたところには是非力を入れて、予算の提案をしていただければと思います。</p> <p>それではお返しいたします。</p>
高橋企画調整部長	<p>活発な意見交換ありがとうございました。</p> <p>他に何かございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは本日の議事は以上になります。</p> <p>閉会にあたりまして、高島市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>今日は、教育委員の皆様と意見交換ができて大変有意義でございました。</p> <p>今後も、教育委員会のご意見をお伺いしながら、連携して進めていきたいと考えておりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>今日はありがとうございました。</p>
教育長・教育委員	<p>ありがとうございました。</p>
高橋企画調整部長	<p>これもちまして、令和5年度福岡市総合教育会議を終了いたします。</p>